九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[011] 総合文化学論輯表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/4370212

出版情報：総合文化学論輯. 11, 2019-11-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies
バージョン：
権利関係：

総合文化学会活動記録　2019.5.1—2019.11.1

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第 10 号刊行　2019.5.1

第 17 回総合文化学会

日時：2019 年 9 月 15 日（日）　午前 10 時～午前 11 時 45 分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス研修室 A

１．ご挨拶・ご連絡・新年度人事承認

２．口頭発表

①

発表者：佐藤慶治

九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程修了。博士(比較社会文化)。精華女子短期大学幼児保育学科専任講師。比較文化学、音楽教育学、児童文化論を専攻。主要な論文に「明治期の唱歌教育における翻訳唱歌と国民形成」「近代日本の文化形成と翻訳」「1960-70 年代における NHK『みんなのうた』と西洋ポピュラー音楽」など。現在、文部科学省科学研究費(若手研究)を取得し、「NHK『みんなのうた』を中心とした日本児童音楽文化の変遷に関する歴史社会学的研究」というテーマで研究を行う。

発表タイトル：

「小学校音楽科歌唱共通教材の意義—学習指導要領との関連性から—」

発表要旨：

現在の小学校音楽科における歌唱共通教材は、全 24 曲中 17 曲が明治時代に作られた文部省唱歌からの出典であり、歌詞や曲調が現代に相応しくない等の批判もあるが、震災時等はその中の《故郷》が全国で頻繁に歌われるなど、現代日本においても共通文化としての機能を果たしている。本研究においては、歌唱共通教材について、その変遷や、また平成 29 年度版新学習指導要領と比較を行う形で義務教育におけるその教育意義を検討する。

②

発表者：入江良英

早稲田大学博士課程満期退学、修士(社会学)。精華女子短期大学幼児保育学科専任教授。教育学、保育学、教育社会学、理論社会学、人間科学等を専攻。主要な論文に「世界変革社会学序説」「未来からの保育原理」「特別支援保育とは何か」「専門職大学・短期大学の可能性」「『個性化』と『社会化』が融合（一致）した保育・教育の研究」等がある。社会変革・教育改革を根幹としたグランドセオリーの構築のための研究を目指している。

発表タイトル：

「2020 年の教育改革における保育士・幼稚園教諭養成校の在り方の研究について」

発表要旨：

「2020 年の教育改革」を迎えて、「主体的・対話的で深い学び」の必要性が問われている。しかし、元保育学会会長、小川博久の「『反知性的保育』をいかに克服するか？」という 主張・提言は、養成校の保守的現状を見るにつけ、容易に解決されるとは考えにくい。鳴り物入

りで始まった「専門職大学・短期大学」の導入も、専門学校的教育の補完的な流れになっているし、①「プロジェクト・ベース学習（PBL）」、②「プロブレム・ベース学習」、③「デザインベース学習」等の「新しい学びのフレームワーク」も、養成校レベルでは実施が困難な状況である。これらの現状の克服を、本発表では考察する。

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第 11 号刊行　2019.11.1